

本の情報	内容
<p>『ひかりうりのぴかこさん』</p> <p>松山 円香 著 佼成出版社 2014.9</p> <p>1110972606</p>	<p>ちょうちんあんこうのぴかこさんは、海の底では手に入らない、珍しいものばかり売る雑貨屋さんです。でもどうやって売り物を手に入れてくるのでしょうか？実はぴかこさん、もう一つ秘密のお仕事を持っていたのです。月の出ないある夜、ぴかこさんはお店を閉めた後、海の上まで泳いでいくと、何とふわりと空を飛んで森へ向かっていったのです。夜を照らすぴかこさんの光が優しく幻想的な絵本です。</p>
<p>『ちいさなワオキツネザルのおはなし』</p> <p>オフィーリア・レッドパス 作・絵 松波 佐知子 訳 徳間書店 2014.11</p> <p>1110946419</p>	<p>ふるさとの南の国から遠い北の国に連れて来られてしまった一匹のワオキツネザルのこども。ある晩船から逃げ出し、ふるさとで見たランの花が咲いている暖かそうな家の中に忍び込みます。家の人々が寝静まるのを待って、ワオキツネザルは食べ物を探しに家の中を動き回りますが…。ちいさなワオキツネザルとある家族との心暖まるおはなしです。</p>
<p>『パンツはながれる』</p> <p>林 正博 文 殿内 真帆 絵 福音館書店 2014.11</p> <p>1110944030</p>	<p>おばあさんは川に洗濯に行った帰り道、おじいさんのお気に入りのパンツを川に落としてしまいました。おばあさんはパンツをつかまえようとしていますが、パンツはすいすいと川を流れていきます。通りかかった自転車やパトカーに乗せてもらって、おばあさんは必死に追いかけますが、どうしてもつかまえられません。やがてパンツの話がニュースで伝えられ、大勢の人がパンツを見に川岸にやって来ます。</p>
<p>『あたし、メラハファがほしいな さばくのくにモーリタニアのおはなし』</p> <p>ケリー・クネイン 文 ホダー・ハッターディ 絵 こだま ともこ 訳 光村教育図書 2014.12</p> <p>1110967894</p>	<p>メラハファ、それはイスラム教徒の女の人がまとっているベールです。一人の女の子がお母さんにメラハファがほしいと言いました。それはお母さんみたいにきれいになりたいから。ところがお母さんは、メラハファはきれいになるためにあるのかしらと逆に女の子にたずねます。女の子は何のためにメラハファがあるのかを考えます。自分のメラハファをまとった女の子の美しさが印象的な絵本です。</p>
<p>『いわんこっちゃんない』</p> <p>スギヤマ カナヨ 著 少年写真新聞社 2014.11</p> <p>1110953807</p>	<p>ぼくのおじいちゃんは予言者だ。それは冗談。でもおじいちゃんの言うことはとってもよく当たるんだ。例えばごはんの時、おじいちゃんは「皿をそばに持ってこない」と、悲しいことになる。」って言ったんだけど、ぼくはそうしなかった。そしたら本当に悲しいことが起こったんだ。おじいちゃんには「いわんこっちゃんない」と言われたよ。なんでおじいちゃんのいうことはそんなによく当たるのかなあ？</p>
<p>『きめてよ、おじいちゃん！』</p> <p>ジャン・ルロワ 文 ジャン＝リュック・アングルベール 絵 ふしみ みさを 訳 光村教育図書 2015.1</p> <p>1110984634</p>	<p>ぼくは学校が休みの日に、おじいちゃんの家に行く。おじいちゃんがぼくの面倒を見てくれるから…なんだけど、おじいちゃんったら何をしてもぼくに聞いてばかり。自分は「どっちでもいいよ」だって。だからぼくはこう言ったんだ。「おじいちゃんが決めて。ぼくには聞かないで。」ってね。結局二人でテレビを見ることにしたんだけど、やがておじいちゃんが子どものころの話を始めだして…。不器用な祖父と孫の交流を描いた絵本。</p>